

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念である家庭での生活「その人らしい毎日」を送って頂く為に、個々のニーズを探りケアプランを作成、共有を行い実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年6回(2カ月に1回)の推進会議に民生委員、包括、町会、利用者様、利用者様のご家族に出席して頂き、情報の交換と共有を行い、町内の行事にも参加できるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	鞍月公園には当苑にAED設置の案内板があり、推進会議を通し施設見学の歓迎を地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の推進会議を開催し、民生委員、包括、町会、利用者様、利用者様のご家族と相互の情報を発信、交換を行い連携を図っている。地域の行事にも参加、施設の行事を地域に発信しサービス向上を行って行くように取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議にて包括より直接ご意見やご指導いただき事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え連携を図り協力関係を築く様にしている。又、研修施設としての受け入れをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接の身体拘束は行っていないが、職員の状況により(人数体制)フロア入り口に施錠し安全を図っている。また入居者の様子を見ながら施錠時間の短縮を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の中から一人代表で研修に参加し、ミーティングにて報告、資料を各フロアにて回覧し話し合いを行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で学習する機会を設けていないが、権利擁護のマニュアルを設置、随時、閲覧できるようにしている。又、必要のある方は個別に話し合い活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営者と責任者が中心となり、利用契約書や重要事項説明書、個人情報同意書に沿って説明を行い理解と納得のもと署名、押印して頂いている。不安や疑問点についても確認、説明を行い理解・納得して頂く様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。運営推進会議へ利用者様、利用者ご家族様に参加して頂き、意見や要望を伺い運営に反映させている。又、運営推進会議の参加のお知らせの際、意見や要望の記入を促している。その他、面会時にもご家族より意見を聞き色々な面から反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアで話し合った意見や提案、思い等随時、管理者に報告し代表者に報告し意見を反映させている。代表者との話し合いの機会を設け意見交換を行ったり、ユニットごとに話し合った意見や要望を代表者に報告、提案し運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員とコミュニケーションを取りながら現場の状況や変化を把握し、より良い勤務環境が整うよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のそれまでの経験や力量を把握し、一人ひとりに合わせた研修の場を設け、参加を促進している。新規採用者については内部研修を行い適切な介護が出来る様に助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と協働して相互訪問の場を設け、他の施設職員の意見を聞き入れ相互の意見交換によりサービスの質の向上に取り組んでいる。他グループホームの職員研修として受け入れ意見交換を行いサービスの向上行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サマリーやご家族様からご本人の生活歴や現在の状況を把握し、ご本人の困っている事や要望を聞き入れ本人の安心感に繋がる様に努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、入居時に不安な点や困っている事をお聞きし、面会などご家族が来られた時に職員は日頃の様子をお知らせし、不安や要望等が話し易い雰囲気になる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかりと取り、それに基づいたケアプランを作成し、必要なサービスが何か職員間の連携を図り、情報の共有を行い見極める努力を行い日々のケアに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様のできる事を把握し残存能力を引き出し役割を分担し、信頼関係のもと、お互いに助け合いながら生活している。ご自身の役割を見つけられるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時ご本人の状況や思いをお伝えし、普通の生活が送れ、来訪が増える様に家族と本人の関係が継続出来る様に支援している。又、ご本人が希望すればご家族に要望を伝え外出の時間を作ってもらおう等している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、親戚の馴染みの方の面会、外出、外泊、行きつけの美容院や見舞いなど、家族が付き添いにて関係の継続の支援を行っている。ご家族の協力を得られない事もあるが手紙のやり取りや、面会時ゆっくり会話が出来る様に支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は良好でお互いを気遣い労りながら、孤立しない様に支えあい生活されているので、継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、次の居住先に介護サマリー等の情報を提供を行い、ご本人の状況を知らせている。ご本人、ご家族より相談や希望があれば何時でも情報の提供を行い、対応し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話す時間を作り思いを聞き、ご本人本位の暮らしが出来る様にコミュニケーションを図り、思いを尊重できる様に努めている。それぞれの思いを大切に介護者の思いを押しつける事のない様に心がけその人らしい生活が送れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族や前担当者等から情報提供して頂きこれまでの経過等の把握に努めている。又一緒に生活する中でご本人より思いを聞き支援行っている。今まで慣れ親しんできた馴染みのある物などを居室に置き整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に目を配り行い職員は気づいた事を話し合いながら傾聴行い情報を共有し、その人の状態に応じたケアを行いケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時状況を話し、介護計画書の説明と了解を得ている。家族とも情報交換行いご本人の出来る事・したい事を出来る限り把握しケアプラン会議やミーティングで意見を出し合い本人の言葉を記載し介護計画を作成、実現できているかを検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・連絡ノートに個別記録を記入し、月に1回会議を行い問題点や、気づきを話し合い介護プランに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じたケアを重視し行っている。他施設への訪問、歌、体操、三味線、フラワーアレンジメントの行事やボランティアなど様々な機関との連携を取りながらサービスの多様化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に行ったり、公園、美容院、飲食店など地域の方と交流が図れる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を確認し協力医療機関をかかりつけ医にしている。専門医への受診は本人・家族の意向を確認しかかりつけ医に報告し紹介して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の出勤時個々の状態を報告・相談を行っている。特変時は24時間オンコールで随時相談し医師への報告や受診の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後1週間経過した場合はお見舞いに行き担当者から症状の説明を受け、情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期より家族・かかりつけ医と方針を話し合い今後の体制を整えている。又出来る事と出来ない事を明確にしかかりつけ医・家族に相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、定期的な訓練はない。急変時は各フロアにも応援や相談を行う事とし、1人での判断によらない様にしている。職員は救命講習に参加している。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	急変時対応マニュアルや、AEDが導入され、苑での訓練があった。行方不明時対応マニュアル作成し回覧後直ぐに読める所に綴ってある。又訓練を行い振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関の支援体制は、ホームDr、として月2回の往診と週1回の訪問看護にて確保されている。協力施設については、グループ施設がある為、災害等の緊急等の支援体制として確保されている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニットごとに1名の夜勤者を配置、緊急時連絡をとる体制になっており、夜間定時に3回確認を行い状況の把握をしている。必要時は管理者、ホームDr、に連絡を取り状況に応じた対応を行っている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っている。推進会議等を通して町内とのつながりはできているが地域の訓練には参加に至っていない。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害時のマニュアルを作成、定期的に避難訓練を行い利用者様の安全確保を行っている。食料品の備蓄、非常持ち出し袋(食料・飲料水)を用意し、持ち出せる様にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を損ねない様に敬意を持った対応を心がけ、排泄時や入浴時は個人のプライバシーの確保を行い自尊心に配慮した言葉掛けを行い支援を行っている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の自由と意思を尊重したケアを心がけるよう努め、普通の毎日が送れるように職員は入居者様の意向を中心とした支援が出来る様に努めている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の意向を中心としたケアができる様に努めているが、一日の業務(外出・入浴・食事)についてはホームの都合やペースで対応している場合があるが、少しでも意に添える様、時間帯や食事の内容を工夫するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや意向を尊重しながら声かけ行身だしなみを整え、季節に合った洋服選びの支援を行い、本人の持っている力に応じて個々に支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど一人ひとりの持っている力に沿って職員と一緒に楽しみながら行っている。おやつ作り等で関りを持ちながら食べることを楽しんで頂いている。2ヶ月に1度シェフが来苑し、食事を提供してくれ普段と一味違う雰囲気です食事を楽しむ支援をしている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は入居者が食べやすい形態を考えて提供している。水分摂取も1日の摂取量が確保できるように対応している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の口腔ケアは、義歯をお預かりして洗浄剤使用し消毒行っている。朝、昼食後の口腔ケアはうがいや義歯洗浄・歯磨きを行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを周知し布パンツを使用できるように時間を考え声かけを行い支援している。夜間も個別に時間を考えトイレでの排泄を声かけしている。付き添い、見守りにて尿パットの持参、装着の確認、汚染確認、交換やパンツの上げ下げの介助などのできない事の手伝いをしている。自分でできる事は行ってもらっている。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに工夫し食物繊維の摂取に心がけ水分摂取量の把握・運動不足の解消など個々の状態を職員間で話し合い、水分補給や体操・散歩等行う事で対応している。医師との連携を図り、内服にて調整している。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本は週2回入れる様にローテーションを組み支援しているが、入居者の都合や希望で入浴されない場合は別の日や時間をずらす等の対応をしている。入浴剤を使用し楽しむことができる様に工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や休みたい時など個別に休息している。就寝状況に合わせて寝具や光を工夫している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには、薬剤情報を入れており各自職員は目を通して。変化があれば連絡ノートに記入し全員が周知できるようにしている。確実な服薬支援と症状の変化の発見に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や好きな事を考慮しながら役割として家事の分担を行ったり、趣味や好きな事を提供し個々に支援し楽しみとした気分転換を図る様に支援行っている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、近くの公園へ散歩に行ったり、スーパーに買い物に出かける支援を行っている。昼食を食べに遠出することも行事に取り組み支援を行っている。又、ご家族の協力を得ながら外出の支援につなげている。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売車の利用についてご家族に了承済みで近日中に好みのものを購入できるように支援の計画をしている。本人管理でお金を所持し買い物時にお財布を持参される方もいる(職員の支援のもと)。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおり、希望があれば、職員の介助にて電話を使用することも可能にしている。手紙も希望があれば対応できる体制である。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように、レクリエーションの時、カレンダー作りや壁かざりを作る等工夫している。室内の温度管理や空気の入替えを行い不快の無い様にしている。週1回届く生け花や行事のフラワーアレンジメントに参加され花のある生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者が雑談できるよう配置換えなどの工夫をしている。食卓テーブル、ソファ、和室があり、思い思い好きな所に座り談話されておられる。一人になる時は居室に戻り過ごされている。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの物は安心につながることを入居時に説明し、家族の写真や家具等持ち込み居心地よく過ごせるように工夫している。		
59		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タンスや椅子・テーブルなどの配置を工夫し環境整備を行い安全に配慮しながら、自立した生活ができる様に工夫している。		